

21歳の時、私はまだ金髪・ブルーアイがウヨウヨいたゴールデン・ステーツと呼ばれるカリフォルニアの大都市LAにいた。あれは1979年の夏の衝撃的な出来事だった。

熊本出身のワカさんは、当地に4年居て、あと1年居たらアメリカの永住権(グリーンカード)がもらえるから、自分を殺して我慢して、低賃金でファースト・ストリーートの日本料理のキッチンで働いているんだと言っていた。彼は口からお酒の匂いをブンブンさせながら私をオチョクツて来た。

「お前みたいな21歳男子の日本人とLAの日系人を裸にしたら、どちらが日本育ちかLA育ちか、その違いがわかるか? 2カ所あるぞ」

私は少し考えてからこう答えた。「髪型ですかね〜」

当時の日系人と日本人では髪型が違っていた。日系人は今の日本人のように刈上げタイプが多く、当時の日本人はボサツとしたロング系が多かった。ところが、ワカさんは「違う」と間髪入れずに言った。私が「足の長さですかね〜」

と答えると、ワカさんは

「それは確かにあるが、最近の日本人でも足が長い奴はいるからな〜」と、別な回答を探すことになる。

同じ日本人のDNA(当時は血)

なのだから肌の色、ではない。腕の長さ? 顔の大きさ? 一重か二重? 違うな。いろいろ考えていると、ワカさんは私に左腕を出せと命じて、突然腹を抱えてゲラゲラ笑い出した。

「これだよ、このBCGの跡だよ」

私は驚いて「アメリカ人ってBCGやらないんですか?」と聞いた。するとワカさんは「俺も4年前にアメリカに来た時に同じことを言われて、なんでアメリカではBCGやらないんだって考えたよ。ある時なんか、お前はアウシユビツツにいたのか?」って言われたこともあったな」と答えた。

日本株だから有効?

巷では、この日本株のBCGが、あのウイルスに効果がある(?)といっているので、調べてみると面白いことがわかった。乳幼児期に定期接種している国の人口当たりの、あの中国発信のウイルスによる死者数を比べてみた。日本、台湾、イラクなど日本株を使っている国と、ヨーロッパ

あの中国ウイルスとBCGの関係

Vol.145



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作物する。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョシディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

の多くのデンマーク株を使っている国では、ざっくり2桁違う。また、隣接するイランとイラク、ポルトガルとスペインで明らかに差があるのはどうしてか。ネット記事をもう少し見てみると、BCGには日本で接種されているtokyo172株のほかに、ロシアBCG1株、デンマークDanish1331株、パステール株、ブラジル株等があるようだ。別に医学的見地を

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

述べるつもりはないが、アメリカ、オランダでは1000人の医療従事者、オーストラリアでは4170名の医療従事者がこのBCGの臨床試験を計画しているらしい。

日本のネットでは日本株が他国の株よりもあの中国発信ウイルスに効果があるとの記載が多い。そこで当地では、どのタイプのBCG株が使われるのか米Yahooのサイトで調べてみた。アメリカの国立ガン研究所のサイトに日本株が膀胱ガンでどうのという記事はあったが、どこにも日本株を使うのか、ほかのBCG株を使うのかといった各国の臨床試験の詳細については記載されていない。というか、探しきれなかった。

ではオーストラリアではどの国のBCG株接種を行なう(行なった)のだろうか? 当然日本株を使うのだろうか?と考えるが、日本優位(アジア優位)の情報を自国に流さないのは彼らの常套手段だ。まあ、アングロサクソンは情報操作が非常に上手だというのは間違いないだろう。

アングロサクソン流の考え方は

こんな例がある。7年前にシドニー港に停泊してある古いイギリス製の潜水艦の中を見るツアーがあった。狭くて配管むき出しで、快適と

はかけ離れた設備であることは間違いない。案内をしてくれたのは昔美人だった金髪・ブルーアイだった。

私が「オーストラリアはもうすぐ新しい潜水艦を導入するんですね? 日本も技術供与するかもしれません」とオージーなまりで語ると、元美人は「そうよ、日本に技術を教えてあげるのよ」と南半球と北半球が入れ替わったトンチンカンな話になった。喧嘩をしに来たわけではないので、私は「世界で一番静かな日本の、そりやう」の技術は素晴らしいですよ」と言うと、元海軍人でも知らない情報を聞いた金髪・ブルーアイは大層がっかりした表情を見せた。

こんなこともあった。現役で運用されている航空自衛隊のF2戦闘機は80年代に日本独自で開発される予定だったが、そこに市場独占を目論むアメリカが文句を言い出した。結局はエンジン開発を独自でできなかった日本の力不足もあり、世界で運用され実績があるロッキード・マーチンのF16をベースとして、三菱重工業がメインの契約者となり開発されることになった。ここまででは、当時の力関係からしてそうなるでしょうね、と誰もが理解できた。問題はここからだ。このF2のために、日本は戦闘機用のコンパクト

なアクティブ・フェーズド・アレイ・レーダーを開発した。この素晴らしいレーダー技術をアメリカの戦闘機にも、有償ではあるが技術移転でできることになったらしい。

まあ、ここまでもそこそこの情報通であれば周知の事実だ。15年ほど前にアメリカのホテルで情報番組を見てみると、日本のF2戦闘機のことをやっていた。内容は「ニューゼロ(新しい零戦)だ」など日本人の心を奮い立たせてくれる単語もあったが、最後がどうしようもないボンコツ偽装発言だった。名前は忘れたがこの往年のパイロット資格を所有するハリウッド男優はこう言った。「この日本の戦闘機はアメリカの技術を盗んで作られた物だ」

ふざげんな、この嘘つき金髪・ブルーアイ野郎! 彼にしてもそのように言われたのは事実で、本当の事情を知らないアメリカ国民に「日本人は真似ばかりしやがって!」と思込ませるのに十分な一言だった。もちろんこの番組が日本語で日本のテレビで放送されることはないのだから、強気で言ったもん勝ちのアングロサクソン流をしつかりと拝見させていたのだ。私は、アングロサクソン流とはアメリカが世界をどう捉え、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、

ニューゼランドが結ぶ軍事同盟UKUSA協定(ファイブ・アイズ)がどのように動くかで、世界の安定が築かれていると考えている。まずはこれらの国の利益であり、日本がそれらの国々とう付き合うのかで日本の安定した未来が確約される。決して中国や半島国と安全保障を結んでもファイブ・アイズが日本を信用することはないだろう。

話を少し戻して——もしかして数カ月後には、BCGとあの中国ウイルスとは何の関連もない後付け統計学でした、となるのか。アメリカ・メイン州の離婚率はこの20年間、下がり続けている。同じようにマーガリンの消費も同じカーブで下がっている。これではマーガリンの消費を減らせば離婚率も下がることになるのか? チョコレートの消費量とノーベル賞の授賞者数も同じ線で表すことができる。賢くなるのはカカロ50%以上のチョコレートを食べましょうということか?

最初の質問に戻ろう。21歳男子の裸の日本人と裸のLAの日系人のもう一つの違いは何か。それはタートル・ネック(turtleneck)状態かどうかだ。別に上野クニツクの宣伝ではないが、私の人生経験からはつきり言えることがある。日本の若者よ、ひと皮剥けて大きくなるう!